

ちゅらさん

「ちゅらさん」は、沖縄ものとして1993年の大河ドラマ「琉球の風」に続き、2001年に朝ドラで放送されて、沖縄の風土、生活、文化を国民に身近なものにしました。私もこの朝ドラは珍しくも続編も含めて大体見ました。今回は日本語の実質上唯一の兄弟語である沖縄語、なかでも首里語の紹介をしたいと思います。なお、言語的には両言語の他に、八丈語と、奄美語、沖縄本島北部の国頭語、先島の宮古語、八重山語、与那国語もそれぞれ独立の言語とみなされています。

沖縄の歴史を簡単に繙いてみましょう。神話時代である天孫氏25代の後に、伝説時代の舜天王統三代1187-が始まります。後にできた琉球の国史では浦添按司出身の舜天（尊敦）は同地に漂着した鎮西八郎源為朝の子とされ、椿説弓張月でもその説を受け継いで物語が展開されています。次いで英祖王統五代1259-1349が続き、その後は中山王の察度王統1350-に加えて、北山1322-1416、南山1337-1429の三山が分立してそれぞれ明朝との朝貢貿易を始めます。察度王統は英祖王統を継いだもので、また北山と南山は英祖末裔と名乗っていました。中山王を継いだ（第一）尚氏1409-69は、三山を統一するとともに、15世紀半ばに奄美を服属させ、1466年には足利義政に通使しています。しかし、その直後の1470年に内乱を経て第二尚氏が取って代わり、按司（大名）の首都移住や武器の国家管理を図って集権化を進め、16世紀には先島の宮古・八重山を服属させて諸島全体の統一も実現しました。しかし、1609年には薩摩藩の琉球征伐、1872年には明治政府の琉球処分を受けて、独立を失っていきます。そして太平洋戦争における戦火と27年に及ぶ米軍の占領、今も残る大量の米軍基地。

その中でもたくましく生き抜いた沖縄の民は、様々な分野で活躍してきました。ボクシングの具志堅用高選手を嚆矢として、野球の安仁屋宗八選手や沖縄尚学チーム、ゴルフの宮里藍選手らがスポーツ界で、安室奈美恵やSPEED、MONGOL800、kiroroらがポピュラー音楽で、島唄では喜納昌吉&チャンプルーズ、りんけんバンド、ネーネーズ、BOOM、夏川りみなど、県民人口の割には極めて多数の人気スターを輩出しています。なお、「ハイサイおじさん」のハイサイは、“やあ”という挨拶言葉です。また、空手が発達したのは、国家が民間から武器を取り上げたからです。

沖縄の言語芸術で著名なものは、沖縄の万葉集「おもろさうし」（16世紀から17世紀にかけて首里王府によって編纂された歌集）と沖縄の歌舞伎「組踊」（清からの冊封使接待のため18世紀始めに創作された歌舞劇）でしょう。その他、古典文献として、歴史書『中山世鑑』1650、『中山世譜』1701、『球陽』1745、外交文書集『歴代宝案』1424-1867、地誌『琉球国由来記』1713、漢詩集『中山詩文集』1725、琉歌集『琉歌百控』1802 などがあります。また、女性祭司ノロや祭祀場である御嶽ウタキ、民間信仰では姉妹が兄弟を守護するヲナリ神、楽土ニライカナイなどの伝統信仰も、大和の原始信仰との関連で興味が持たれています。一方、盆踊りエイサーやシャツの“かりゆし”も人気です。ゴーヤチャンプルー、ソーキそば、ミミガーなどの沖縄料理も今や全国区入りですね。

チュラサンは“清らさあり”に対応する言葉です。奇しくも、このチュラサンという言葉は、沖縄語の発音の3つの特徴を兼ね備えています。まず、沖縄語の基本母音はアイウの3つです（ただし、複合母音“あい”、“あう”などから新たにエ、オが発生しました）。日本語の“え”は沖縄語のイに、“お”はウに対応します。次に“き”や拗音“きゃ、きゅ、きょ”は、口蓋化してチやチャ行になります（“ぎ”なども同様）。こうして“きよら”はチュラを経てチュラになりました。最後にラ行の音が、語尾などでンとなります（r音が脱落することもよくあります）。これで“さり”がサンになりました。また、“あわ”は長音化してアーになります。これで沖縄もウチナーになりました。（なお12世紀からの作品も含むとされる“おもろそうし”の古謡からみて、昔の沖縄語では母音が5

つのみままで、口蓋化などの音便も余りなかったと考えられています。)

日本語古語の形容詞には基本のク/シク活用の他に連用形ク/シクがアリと融合してできた派生的なカリ活用がありますが、沖縄語の形容詞は名詞形～サとアリが融合してできたサリ活用なのです。少し例を挙げてみましょうか。アマサンは“甘い”に対応しています。サンをイに変えれば大和口になります。カタサン、カラサン、キツサン、クラサン、シブサン、タカサン、チカサン、ナガサン、ヌクサン、ヌルサン、ヒクサン、フカサン、フルサン、マルサン：答えを出さなくてもわかりますよね。母音が狭くなっているものには、ウトウルサン恐ろしい、ウフサン多い、クマサン細かい、トゥーサン遠い、ヒルサン広い、フスサン細い。沖縄語が大和人にとってどれだけ馴染みやすいものかがこれでお分かりでしょう。もちろん、これらの言葉がすべて両方の地で独立に変化して平行した結果に至っているわけではなく、鎌倉・室町時代に次第に日琉の通交が深まり、島津藩による属国化、明治の琉球処分による併合の中で生まれたものも沢山あったと思われます。もちろん一方では、ハベル（蝶）やネー（地震）など大和の古語や方言にのみ残っている言葉に対応するものもあるそうです。

沖縄の言葉の中で一番有名な挨拶言葉、メンソーレー（いらっしゃいませ）は“参り候らえ”に由来するとされています。敬語のミシエーン（お～になる）は“召し有り”から、丁寧語のビーン<アビユン（ます）は“侍り”から、イメンシェービリ（いらっしゃいませ）は“入り召し侍れ”から来たと言います。このことから見ても、中世日本語の影響は大きいと言わざるを得ません。13世紀後半に日本僧が漂着して浦添に極楽寺を建立し、14世紀には那覇に大和風の神社、波上宮が建てられたことも、当時の日琉の盛んな交流を物語っています。

では、簡単な表現を見ていきましょう。

通常体の“である,だ”はヤンと言います。丁寧体“です,ます”はヤイビーンと言います。丁寧体はすべてビ/ビーが付きます。副助詞“は”はヤですが、口語では前の母音と融合して長音ーになります。ただし、前の母音がイ段の場合はエー、ウ段のときはオーとなり、ンで終わる語はノーとなります。

“これ”はクリ、“それ”はウリ、“あれ”はアリ。したがって、“これは”はクレー。

| | |
|--|---|
| クレ ^{ハナ} 此 _二 花ヤン | アレ ^{トクイ} 彼 _二 鳥ヤン（あれは鳥だ） |
| クレ ^{ハナ} 此 _二 花ヤイビーン | アレ ^{トクイ} 彼 _二 鳥ヤイビーン（あれは鳥です） |

形容詞の終止形はサン、丁寧体はサイビーンです。

連体詞“この”はクヌ、“あの”はアヌ、“その”はウヌ。

| | |
|--|--|
| ア ^ヤ 彼ヌ ^{マギ} 家ヤ ^{マギ} 大サン | チュウ ^{アツ} 今日ヤ ^{アツ} 暑サン（今日は暑い） |
| ク ^{ハナ} 此ヌ ^{チュウ} 花 ^{チュウ} 一 ^{チュウ} 清ラサイビーン | ウ ^{スム} 其ヌ ^{チエ} 書物 ^{タカ} 一 ^{タカ} 高サイビーン（その本は高いです） |
| ニチ ^ア 熱ヌ ^{フイ} 有 ^{フイ} ティ ^{フイ} 冷 ^{フイ} クナトーン（熱があって寒くなっている[寒気がする]） | |

形容動詞の終止形はヤン、丁寧体はヤイビーンです。

アレ ^{ウツドク} 彼 ^{ジョージ} 一 ^{ジョージ} 踊 ^{ジョージ} イン ^{ジョージ} 上手ヤン（彼は踊りも上手だ）

動詞の終止形はンで終わります。丁寧体はビーン。スン（する）の丁寧体はサビーン、ユン（言う）はイヤビーン、チューン（来る）はチャービーン、イチュン（行く）はイチャビーン。“ある”はアン、主語を表す格助詞“が”はヌです。人が主語の場合はガを使います。

| | |
|--|---|
| テイ ^ダ 太陽 ^テ ヌ ^テ 照 ^テ ユン | テイ ^ダ 太陽 ^テ ヌ ^テ 照 ^テ ヤビーン（太陽が照ります） |
| テイ ^ハ 天 ^ハ ヌ ^ハ 晴 ^ハ リユン | テイ ^ハ 天 ^ハ ヌ ^ハ 晴 ^ハ リヤビーン |
| フ ^{テイ} 筆 ^{テイ} ヌ ^{テイ} 一 ^{テイ} 有 ^{テイ} ャン | フ ^{テイ} 筆 ^{テイ} ヌ ^{テイ} 一 ^{テイ} 有 ^{テイ} イビーン |
| アリ ^ン 彼 ^{ナトク} ガ ^{ナトク} 港 ^{チュ} イン ^{チュ} カイ ^{チュ} 来 ^{チュ} ーン | スレ ^ワ 其 ^ワ 一 ^ワ 我 ^ワ ガ ^ワ 悪 ^ワ サン |

所属を表す格助詞“の”はヌですが、人にはガを使います。日本語でも“我が家”など古い表現で所属に“が”を使い、また“雨の降る日”など修飾節中で“の”が主語を表しています。

学校ヌ庭ヌ梯梧一見事ヤン (学校の庭のデイゴは見事だ)

歯ヌ病ムン 木ヌ葉ヌ落ティユン

彼ガ書物 貴方ガ物

目的語には格助詞は使いません。

書物 読ムン 御茶 飲ムン 字 書チュン 木 切ユン

場所などを表す格助詞“に”に相当する語はいくつかあります。ンカイ と ニ はほぼ同じ使い方ができますが、後者は副詞的用法にも使えます。ニヤ “には” はネーとなります。

太陽ヌ天ンカイ上ガイビーン 我一毎年大和ンカイ行チャビーン

自然ニアン(そう)成ユン 大雨ヌ故ニ災ヌ起キユン (大雨のせいで災害が起きる)

場所を表す格助詞“で”はウティ、ウトーティ、ンジと言います。ウティは“おいて”に対応しています。

夕飯一レストランウティ食ムン。 此处ウテ一カチャーシー踊トーン。

海ウトーティ魚釣ユン。 庭ンジ皆シ遊ブタン。

手段を表す格助詞“で”はツシまたはサーニです。どちらもスン“する”の接続形(して)に由来します。

沖縄口ツシ話為ン 手紙ツシ事情伝ユン (手紙で事情を伝える)

筆サーニ字書チュン 飛行機サーニ来ーン

起点を表す格助詞は大和口と同じカラ“から”です。通過する場所“を”や通行手段“で”も表します。終点はマディ“まで”。

今日カラ明日マディ 彼ガ道カラ歩チュタン 徒歩カラ行チュン

比較の対象を表す助詞はヤカ“より”です。

女の子一刀自ヤカ可愛シャン (娘は妻より可愛い)

我ヤカ他ネエ誰ガン知ラン (私より他には誰も知らない)

副詞“も”はン、“こそ”はドウと言います。ドウは係助詞で動詞や形容詞の連体形を要求します。

此ヌ車ン我物ヤン 沖縄ヤ海ン天ン青サイビーン (沖縄は海も空も青いです)

命ドウ宝 我ガドウ悪サル 銭一少ドウ有ル (お金は少ししかない)

随伴などを表す格助詞“と”はトウで表し、引用に使う“と”はンティと言います。

山羊ヌ肉トウ蓬葉買ユン 今日ヤ弟トウ行会ユン (今日は弟と会う)

沖縄ヌ酒一泡盛ンティ言ビーン 明日一晴リユンティ思ユン (明日は晴れると思う)

持続“している、しつとある”はトーンで表します。丁寧体はトーイビーン。過去形はトータン。大和口の標準語では完了との区別がありませんが、西部方言では進行を“しておる、しとる、しちよる”として区別しており、この形と対応していると思われます。動詞や助動詞の語尾ンの多くは、“る”に対応するものと考えると感覚的に受け入れやすいと思います。

上手ニ歌トーン ヤシガ(けれども)今日ヤ雨ヌ降トーン

ワンネ スムチ ユ
我一 書物 読ドイビーン (私は本を読んでいます)

完了“している,し終えている”は **テーン** で表します。丁寧体は**テーイビーン**。過去形は **テータン**。標準語と各種方言の“している,してる”と対応しています。

キップコー
切符買**テーン** キップコー
切符買**テータン**
ウ ハナシエ チ
其又 話一 聞**チェン** ウ ハナシエ ミナ シエ
其又 話一 皆**ンカイ** 為**ーン**

保存“しておく” **トーチュン**。丁寧体は**トーチャビーン**。過去形は**トーチャン**。

ニチ ア
熱又 有クトウ(あるので)、薬 飲**ドーチュン**
ニチ ア
熱又 有イビークトウ、薬 飲**ドーチャビーン** (熱がありますので、薬を飲んでおきます)

過去“した”は **タン** などになります。ただし、為**ン**(する)は為**サン**、来**ーン**(来る)は来**ヤン**、書**チュン**は書**チャン**になり、音便により 読**ダン** のように**ダン**になるものもあります。ンの前がア段であることは共通しています。過去進行形は**トータン**になります。丁寧体は (ア) **ビータン**/ビタン。“たり”に対応しているようです。

テ アラ テ アラ シジ ユ
手 洗**タン** 手 洗**ヤビタン** 静カニ 読**ダン** 静カニ 読**マビタン**
チヌー
昨日テレビ見**ーチャン**。(昨日テレビを見た)

否定“(では)ない”は **アラン** を使います。丁寧体は **アイビラン**。これは“(には)あらぬ”に対応しています。

マチゲー
間違**ヤ**アラン マチゲー
間違**ヤ**アイビラン (間違いではありません)
マチゲー
間違**ヤ**アランタン マチゲー
間違**ヤ**アイビランタン

存在の否定“(は)ない”は **ネーン** です。丁寧体は **ネーヤビラン**。形容詞の否定は、連用形ク/シクにネーンが付きます。ヤ“は”が付くとコーネーンになります。

マチゲー ネ マチゲー ネ
間違**ヤ**無**ーン** 間違**ヤ**無**ーヤビラン** (間違いはありません/ないです)
ウチナー フヨ フウイー ネ フウイー ネ
沖繩又 冬**ー** 冷 **コー**無**ーン** 冷 **コー**無**ーヤビラン**

一般の否定“(し)ない”は (ア) **ン** です。丁寧体は (ア) **ビラン**。これは未然形(例えば“読ま”) + “ぬ”に相当します。

ハナシ ス ハナシエ サ サキ ス サケ ス
話 為**ン** - 話 **ー** 為**ン** 酒 飲**ムン** - 酒 **ー** 飲**マン**
ハナシエ サケ ス
話 **ー**ビラン 酒 **ー** 飲**マビラン**

否定形にデーを付けると“せずに”の意味になります。

ワ
我**ガ** 行**イ**カ**ン**デー、誰**ガ** 行**イ**チュガ。

疑問詞を使わない一般疑問文は **イ** を付けます。前の語が **ン** で終わる場合は融合して **ミ** になります。丁寧体は **ビーミ**。

バスー ク マ ン ジュ ミ? ク マ コク サイ ドー リ ヤ イ ビー ミ? ワカ
此**ー** 書物**イ**? 我**ー**ガドゥ 悪**サルイ**? 若**サイ**ビー**ミ**?
サーフィン 為**ー**ガ 行**カニ**? (サーフィンしに行かないか) テイガミ カ
手紙書**チイ**? (手紙書いたか)

疑問詞を含む疑問文は **ガ** で終わります。丁寧体は **ビーガ**。

クレ スー クレ スー
此**ー** 何**ヤイ**ガ? 此**ー** 何**ヤイ**ビー**ガ**?
デイゴ イ チ サ
梯梧**ー** 何時**イ**咲**チ**ヤ**ビーガ**? (デイゴはいつ咲きますか)

疑問詞には次のようなものがあります：何 ヌー、誰 ター（複数タッサー）、どれ ジル、どの チャヌ、何処 マー、何時 イチ、どう チャー、幾つ イクチ、どれだけ チャッサ、どれほど チャッピ。なお、何か ヌーガナ、何でも ヌーディン などの言い方もあります。

命令“せよ”はイ段で終わる形を使います。来るは不規則でクーとなります。

為シ 行キ 気張り
フュー ケー ク
早く帰ティ来ーヨー（早く帰って来いよ）

禁止“するな”はウ段にナを付けて表します。

此処ウウター遊ブナ 車ンカイエー乗ンナ

ア段にンケーを付けると、弱い禁止になります。

此処カイエー書カンケー（ここには書かないでおけ）

意志・勧誘“しよう”はア段で終わる形（志向形）を使います。丁寧体は終止形 ビーン を **ビラ** に変えます。

為 為ビラ 行カ 行チャビラ
ヤー ウティ書物読マ ドゥン ティガミカ
家ウティ書物読マ 同土ンカイ 手紙書カ（友達に手紙を書こう）
此ヌ仕事ーマジユン 為ビラ（この仕事を一緒にしましょう）

推量“だろうか” 疑問の係助詞ガに呼応して終止形のンをラに変えると“だろうか”の意味になります。

何時ガ成イラ（いつになるだろうか） 誰ガ遣ラスラ分カラン（誰を行かせるか分からない）

準体形 終止形のンをシに変えると名詞ができます。“～するの、～するもの、～すること”の意味。

ウチナーグチ ハナシ スムチ ユフ ウビン
沖繩口ッシ 話為シガ 多サン 思出ジャスシン 辛サン（思い出すのも辛い）
マー コー タバク フ イキラ
旨サシ 買ユン 煙草 吹チュシエー 少サン（煙草を吸う者は少ない）

連体形 終止形ののをルに変えると連体形が得られます。過去はタル、進行はトール、過去進行形はトータルとなります。時を表す名詞などに付いて従属節を作ることができます。形容詞ではサルを省いて語幹を直接連結することも可能です。形容動詞の連体形はナです。

ミー タタイムン ノ フニ ユ スムチ ハ
見ユル 建物 乗タル 船 読トール 書物 晴リトータル 天（晴れていた空）
ウチヤ ス カージ シグチ ウ アトウ
御茶 飲ムル 度 仕事ヌ 終ワタル 後
チュラ ハナ チュラバナ マギ キー マギキー
清サル 花、清花 大サル 木、大木

強調の係助詞“ドゥ”は述語に連体形を要求します。

アレ デーゴニ カ
彼一大根ビケーンドゥ嚙マビタル（彼は大根ばかり食べました）

未来・推量“だろう”は文末で連体形にハジを付けて表します。“はず”とはニュアンスが違ってきます。

アリ マタユルク
彼ン又喜ダルハジ
ワ シクチェ ユ
我一仕事ータサンディマディネー終ワユルハジ

比況“のようだ”は連体形にグトーンを付けます。もちろん“如し”に対応するものです。

イ ゲー
生チ返ユルグトーン（生き返るようだ）

連用形 動詞は語尾がイ段になります。形容詞の連用形は大和口と同じク/シク、形容動詞の連用形は二です。

テガミ カ ンジャ ウンドー ッ ビンチョー ス
手紙書キ 出スン 運動ン為シ 勉強ン為ン (運動もして勉強もする)

ウミ カイ イ イユトウ
海ンカイ 行ジ 魚取ユン (海に行き魚を捕る)

連用形の語尾 i の代わりにアーニを付けた形は“して”の意味になります。

クチマギ ア ヌーディー ウク ミ
口大ク開キヤアーニ 喉 又奥見シティクイミシェービリ (口を大きく開けて喉の奥を見せてください)

希望 “したい” は動詞の連用形に欲ブサン(欲しい)を付けます。

シ フ イ フ
為一欲サン 行チ欲サン

推定 “しそうだ?” は動詞の連用形にギサンを付けます。

アメ フ
雨又降イギサン (雨が降りそうだ)

進行 “しつつある” は連用形の i を取ってアギユン/アギーンを付けます。

アレ スムチ ユ
彼一書物読マギーン (彼は本を読みつつある)

可能 主体の能力を示すときはユースンを付けます。

アレ ヤチムンチュク
彼一焼物作イユースン

当為 “べき” は連体形にビチーを付けます。

カ
書チビチーヤン

義務 “しなければならない” は否定形にダレーナランを付けます。

フエーニ
早ク寝ンダンダレーナラン (早く寝ないといけない)

補助動詞 連用形に付けます

イ ン
言チ見ジャン (してみる)

クシ ト
助キティ取ラスン (してやる)

ユ クイ
読ディ呉ユン (してくれる)

カ アツ
食ティ歩チュン (してばかりいる)

ミチ ワ トウ ン
道又分カラノクトウ 問一ティ見ジャビラ (道がわからないので尋ねてみましょう)

ドウシ ワンニ スムチ ユ ク
同士又我ンカイ書物 読ディ呉ィタン (友達が私に本を読んでもらった)

ワン ドウシ スムチ ユ トウ
我ネー同士ンカイ書物 読ディ取ラチャン (私は友達に本を読んであげた)

目的 動詞の連用形に助詞ガを付けると、“しに、するために”の意味になります。

スムチ ユ トシヨカヌ イ ウチナー カンコーシ チュ
書物読ミーガ 図書館ンカイ 行チュン 沖縄ンカイ 観光為一ガ 来ーン

ク マ アシ チ ッチュヌチャー ウフ
此処ンカイ遊ビーガ来ユール 人 達ヤ多サン。

条件 動詞の連用形に(イ)ネーを付けると、“すると”の意味になります。

シクチェ ディッパ サ ムノ カ
仕事一立派 為ンネー 物一食マランドー (仕事をちゃんとしないとご飯が食べられないぞ)

仮定 動詞の語尾をアーにすると“するなら”の意味になります。

サキ ス クルマ ス
酒飲マー 車ンカエー乗ンナ (酒を飲むなら車に乗るな)

また、動詞の語尾をエーにすると“すれば”の意味になります。

クスイ ス シ ナ
薬飲マー 直グマシ成ンドー (薬を飲めばすぐ良くなるよ)

理由 動詞の終止形の^ンを^{クトウ}に変えると“^{ので、だから}”の意味になります。形容詞は^{サヌ}にします。

日曜日ヤ^{ニチヨウビ}ク^ヤトウ、家ウ^ヤテ^スィ書物読^スマ
大風^{ウーカジ}ヌ^{チヤ}来^{ニフ}ク^キトウ、庭^{ニフ}ヌ^キ木^{イダ}ヌ^ウ枝^ウヌ^イ落^ウテ^イィト^ン（大風が来たので、）
八重山^{エーマ}一^{チュラ}清^{チュケノ}サ^イヌ、一回^イ一^イ行^キ

逆説 動詞の終止形の^ンを^{シガ}に変えると“^{が、けれども}”の意味になります。過去形は^{タシガ}。

胃^イ一^ヤヌ^ク病^スム^{シガ}、薬^{クスリ}ヌ^ネ無^ラン 苞^{チトウ}買^コイ^フ欲^{シガ}、銭^{ジン}ヌ^ネ無^ラン（土産を買いたいが金がない）
昔^{シカシエ}一^ア彼^マ処^マ其^マ処^マン^{グシク}カ^アイ 城^{ナマ}ヌ^ネ有^{タシガ}、今^{ナマ}一^ネ無^ラン。

受身形 ア段で終わる未然形に^{リユン/リーン}を付けると受身形の動詞ができます。スン(する)の受身形は^{サリユン}です。丁寧形は^{リヤビーン}。過去形は^{リタン/ッタン}。この形は大和口の“^{れる/られる}”に対応し、同様に可能や尊敬も表します。

焼物^{ヤチムノ}一^ン土^{チヤ}サ^{チュク}ニ^ニ作^ラリ^{ユン}（焼物は土で作られる） 彼^{アリ}ン^スカ^スイ^ス殴^ラッ^{タン}（彼に殴られた）
車^{クルマ}ツ^{トウ}シ^{トウ}通^ラリ^{ユン}（車で通れる） 此^クヌ^イ泉^{ジュン}ヌ^ミ水^{ジエ}一^ス飲^マリ^ヤビ^ン（この泉の水は飲めます）
彼^アヌ^ウお^ト年^ツ寄^スり^エ一^イ大^ク抵^マ 此^ク処^マウ^{ユク}テ^{ユク}ィ憩^ラリ^ヤビ^ン（あのお年寄りは大抵はここで休まれます）

使役形 やはり未然形に^{スン}を付けると使役形の動詞ができます。スン(する)の使役形は^{シミユン}になります。

“^{せる/させる}”に対応します。

童^{ワラビ}ン^{チヤ}達^ンカ^ンイ^ン昔^ン話^ン聞^カス^ン（子供たちに昔話を聞かせる）
良^イ一^ス書^ム物^チヤ^クト^ウ 同^ド士^ウン^シカ^シイ^ユ読^マス^ン（良い本なので友達に読ませる）
彼^{アリ}ン^クカ^サイ^カ草^シ刈^シミ^{ユン}（彼に草刈りさせる）

敬語 目上の人に対する敬語は^{ミシェーン}を使います。丁寧形は^{ミシェービーン}、過去形は^{ミシェータン/ミソーチャン}です。

否定形は^{ミソーラン}です。その丁寧形は^{ミシェービラン}、過去形は^{ミソーラントン ミシェービラントン}。

社^{シャチョー}長^ンヤ^{ジョウ}ゴ^ジル^フヌ^ニ上^ニ手^ニヤ^ニミ^シエ^ン（社長はゴルフが上手でいらっしゃる）
タ^タン^ンメ^ニガ^ニ新^ニ聞^ニ 読^ニミ^シエ^ンタ^ン（おじいさんが新聞をお読みになった）

“^{してください}”は^{クィユン}の丁寧形^{クィミシェービラン}を使います。

彼^ア処^マナ^ニカ^ニイ^ニ有^ニヤ^ニビ^ニク^ニト^ニウ 御^ウ目^ミ掛^カキ^ニテ^ニク^ニィ^ニミ^ニシ^ニエ^ニー^ニビ^ニリ。（あちらにございますから、御覧になってください）

専用の動詞もあります。

尊敬 メ^メン^ニシ^ニエ^ニー^ニン（いらっしゃるーいる、来る、行く） ウ^ウサ^ニガ^ニユ^ニン（召し上がる） 御^ウ目^ミ掛^カキ^ニユ^ニン（ご覧になる）

謙讓 ウ^ウン^ニヌ^ニキ^ニユ^ニン（申し上げる） 寄^ユシ^ニリ^ニユ^ニン（参上する） ウ^ウサ^ニギ^ニユ^ニン（差し上げる） 拝^ウヌ^ニン（お目にかかる、拝見する、致す） 御^ウ目^ミ掛^カキ^ニユ^ニン（ご覧に入れる）

先^シ生^ニガ^ニ此^ク処^マン^ニカ^ニイ^ニ メ^メン^ニシ^ニエ^ニー^ニン（先生がここにいらっしゃる）

貴^ウ方^ニ一^マ何^ニ処^ニカ^ニイ^ニ メ^メン^ニシ^ニエ^ニー^ニビ^ニー^ニガ（あなたはどこへいらっしゃいますか）

御^ウ飯^ニウ^ニサ^ニガ^ニテ^ニィ^ニヌ^ニ後^ニ 飲^アミ^ニシ^ニエ^ニー^ニビ^ニレー（御飯を召し上がった後にお飲みになってください）

今^ナカ^ニラ^ニ代^ニ表^ニ質^ニ問^ニウ^ニン^ニヌ^ニキ^ニヤ^ニビ^ニーン（今から代表質問を申し上げます）

丁寧語はデービル（ございます）です。係り結びの形 ドウ ヤイビールに由来すると言われていました。

^{チュウ}今日ヤ^イ良^{テイ}イ^チ天気デービル

^イ良^{ソウグァチ}イ正月デービル ^{イッペーニフエー}一杯御拝デービル（どうも有難うございます）

これまでは動詞の活用形や語幹については余り触れてきませんでしたが、上記の語尾はそれぞれ特定の語幹や活用形に接続するのです。

沖縄口では動詞の活用は一二段活用が四段活用に融合して簡略な体系になりましたが、音便が複雑で、各行ごとに活用を把握するのが妥当と思われる。ラ行が特に複雑です。活用形としては、否定(未然)・連用・終止・連体・接続の5つの形が立てられています。

| 動詞 | 未然 | 連用 | 終止 | 連体 | 接続(テ形) | |
|---------|-----|-----|------|--------|--------|--------------------|
| 書く | 書カ | 書チ | 書チュン | 書チュル | 書チ | 歩く、聞く、引く |
| 泳ぐwii | 泳ガ | 泳ジ | 泳ジュン | 泳ジュル | 泳ジ | 漕ぐ、急ぐ、継ぐ |
| 話す | 話サ | 話シ | 話シュン | 話シュル | 話チ | 出す、産ナス、直す、倒す |
| 立つ | 立タ | 立チ | 立チュン | 立チュル | 立ッチ | 打つ、待つ、持つ |
| 飛ぶ | 飛バ | 飛ビ | 飛ブン | 飛ブル | 飛デイ | 呼ぶ、遊ぶ、転ぶ |
| 読むyu | 読マ | 読ミ | 読ムン | 読ムル | 読デイ | 飲む、拝む、病む |
| 笑う | 笑ア | 笑アイ | 笑ユン | 笑ユル | 笑テイ | 習う、使う |
| 買うkoo | 買ラ | 買イ | 買ユン | 買ユル | 買テイ | 舞う、這う、奪う、縫う |
| 取るtu | 取ラ | 取イ | 取イン | 取イル/ユル | 取テイ | 当たる、返る |
| 冠ぶるkaN | 冠ダ | 冠ジ | 冠ジュン | 冠ジュル | 冠テイ | 破る、炙る、眠る |
| 起きるuki | 起ラ | 起イ | 起イン | 起イル | 起テイ | 老いる、過ぎる |
| 受けるuki | 受ラ | 受イ | 受イン | 受イル | 受テイ | 燃える、立つ、得る |
| 切るci | 切ラ | 切イ | 切イン | 切イル | 切ッチ | 入る、要る、知る、射る |
| 着るci | 着ラ | 着イ | 着イン | 着イル | 着チ | |
| 入れるi | 入リラ | | 入リイ | 入リイン | 入リイル | 入ッテイ 拾う；呼ばれる(受身動詞) |
| 読めるyuma | 読ラ | 読リイ | 読リイン | 読リイル | 読ッテイ | (可能動詞) |
| する | サ | シ | スン | スル | シ | |

この他、不規則動詞としては以下のものがあります：ヌーン、ツンジュン（見る）、ユン（言う）、イチュン（行く）、シヌン（死ぬ）、シムン（済む）、ウムユン（思う）、マーシュン（死ぬ）、ユースン（…できる）、エウーン（来る）；アン（ある）、ウウン（いる）、ネーン（ない）、ミシエーン（なさる）などの敬語。

また、各種の変化を整理して、動詞に基本語幹、連用語幹、音便語幹の三種の語幹が立てられています。

基本語幹 未然・否定a 禁止u 已然・命令i 仮定ee

連用語幹 連用i 終止uN 連体uru 丁寧abiiN 助詞接続u 推測ura

音便語幹 接続i 過去aN 完了ee 進行oo

形容詞は簡単で、基本語幹sar、連用語幹sa、音便語幹sat 連用ku/shiku

沖縄語の発音で難しいのは、声門閉鎖音、グロッタル・ストップです。喉を閉じて破裂させるように発音するそうです。ッで表記しています。もう一つ、ワ行とヤ行に wuウウや yiイイなど大和口にない音があります。ヤー（家）とイヤー（お前）、ウトゥ（音）とウウトゥ（夫）など区別があります。

本稿を読んで興味を持たれ勉強を始める方がいらっしやれば幸いです。

入門書には以下のものがあります。船津さんは沖縄転勤後に沖縄口の美しさに魅せられて勉強され、下記の書物を世に出されるとともに大和口にない発音で仮名では書けない音を表すために沖縄文字を作られました。沖縄語研究者として活躍されるだけでなく、本業の官僚や統計学者としても業績を挙げておられます。私も、以前に同書を目にして感銘を受け、また沖縄語の実際の姿を垣間見ることができました。両書の文例を利用させていただきました。

船津好明「美しい沖縄の言葉」技興社1988（「沖縄口さびら」琉球新報社2010は同書の改題復刊）

西岡敏・仲原穰「沖縄語の入門」白水社2000

ネット上から下記の辞典がダウンロードできます。その解説編に文法のまとめがあります。

国立国語研究所「沖縄語辞典」2001年版 <https://mmsrv.ninjal.ac.jp/okinawago/>

明治政府が沖縄人向けの日本語教科書として1880年に作成した「沖縄対話」という日琉対訳の本があり、それに現代首里語の訳を付け解説を施した論文「現代首里方言訳『沖縄対話』」が発表され、その一部がネット上で公開されています。